

令和3年度 事業報告

【施設目標に対する達成度合い】

『強みを伸ばす』ことを令和3年度の目標と定め、部署・個人が取り組んでくれました。自分達の強みとは何かを改めて考えることで、日々の業務に責任感を持って取り組む職員が増えたように感じています。

ただし職員間のスキルには差があり、そこはなかなか縮まっていません。むしろ開いているかもしれないと感じることもあり、ここについては組織の重点課題と捉え、いかにしてスキル・意識の低い職員のやる気を引き出していくかを検討してまいります。

【感染症対策について】

河津町での累計感染者数を考えると、50人に1人以上が感染している状況となっています。当施設においても職員1名が感染、濃厚接触による待機も数件発生する事態となりましたが、幸いなことに施設内での感染はありませんでした。

そのような状況下、3回目のワクチン接種が完了した時点より、人数・時間等に関する条件付きではありますが、対面での面会を再開しています。直接会うことが利用者・家族のストレス緩和に繋がっており、感謝の言葉もいただいております。今後の感染状況や社会の考え方の変化にもよりますが、今後も臨機応変に対応しながら、施設内感染の防止と面会維持の両立に努めてまいります。

【総括】

職員の頑張りのお陰で、令和3年度も事業は概ね順調に進んだと考えます。ただし、近年の特養入所申し込み数は減少傾向にあり、入居者確保に苦慮しています。居宅部門においても、新規利用者と同程度の方が亡くなられる状況のため、こちらも利用者数は横這いが続いています。一方、職員確保の面においては、河津町・近隣市町での若年層人口の減少・流出が止まらず、希望に合致した人材確保は増々難しくなっています。

上記2点は、今後の地域福祉と雇用維持を考え得る上で、法人の最重要課題であり、あらゆる選択肢について迅速かつ的確な判断が必要となっております。引き続き皆様のご協力ご助言を賜りたく宜しくお願いたします。

令和4年5月

施設長 真下和人